



豊かで美しいことばや表現とのふれ愛

「ことば」は様々な体験や人とのやりとりの中で、ひろがりや深みを持ち、身に付いていきます。

そこで、「ことば」については次のことを大切にします。

① 温かな語り

乳児期の子どもに、語りかけたり、歌いかけたりすると、語りかけ自体は一方通行に見えますが、子どもは笑ったり、目で追ったり、指をさしたり、いろいろな姿を見せます。

乳幼児期の子どもは、ことばを話さないときから、身近な人との関わりの中で温かな語りかけを通して、コミュニケーションの基礎を育てていきます。

② 美しいことばの文化との豊かな出会い

ことばは、単に意味や内容を伝えるだけでなく、響きやリズムなど音としての楽しさや美しさがあります。

絵本や紙芝居、温かな語りの素話（すばなし：絵本や紙芝居などを使わず、物語などを話すこと）との出会いは想像する楽しさを育むとともに、ことばの様々な楽しさや美しさに気づきながら、ことばの感覚を豊かにします。

ことば

③ しなやかな表現

子どもは、嬉しいことや楽しいこと、自然などの身近な環境と関わり、心を動かす出来事に出会い、自分の気持ちや考えを、身振り手振りやことば等で表現しようとします。

幼児期のことばの発達には、個人差が大きく、表現の仕方も最初は自分本位なところがあったりします。しかし、温かな人間関係を基盤にした周りの人との関わりの中で、他者の表現やことばにふれ、相手や場面に応じた表現の仕方を身に付けるようになります。

自分の気持ちを表現する喜び、身近な人とやりとりする楽しさ、相手の気持ちを思いやる優しさなどを知り、人とつながり、しなやかな表現力を身に付けます。



伊丹市は、平成 18 年度、『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市伊丹特区』の指定を受け、豊かな表現力、そして、国際社会、情報社会に対応できる優れたコミュニケーション能力を育むため、「ことばと読書を大切にする」、伊丹ならではの特色ある教育を推進してきました。

伊丹市における「ことば」を大切にしたい教育では、「薫習(くんじゅう)」を大切にしてきました。薫習とは、香をたく部屋にしていると、その香りがいつの間にか衣服にしみつくように、優れた文化にふれる中で、意識していなくても自然に感化されることを意味しています。



伊丹市は、豊かで美しく、温かな「ことば」とのふれ愛を通して、豊かなことば・豊かな表現が子どもに「薫習」されることを願います。